

シリーズ「子どもの野生復帰大作戦」④

子どもとコウノトリの野生復帰大作戦(上)

地域ぐるみで自然体験活動を推進する「子どもの野生復帰大作戦」は、現在「自然体験学校」や「野外キャンプ」などの取組みを行っています。

このコーナーでは、自然体験活動などを多方面で実践されている方々からその必要性や意義を伺い、連載で紹介しています。

県立コウノトリの郷公園

田園生態研究部 部長

池田 啓さん

いよいよ始まった「子ども野生復帰大作戦」。6月17日には100人を超す子どもたちが、コウノトリの郷公園に大集合して、祥雲寺の田んぼに設置された放鳥拠点ですくすくと育つ2羽のヒナを見ながら、湿地や川の中での野外活動を楽しんでいました。

ご存じのように、このコウノトリの郷公園ではコウノトリを野生復帰させるためにトレーニングを行っています。トレーニングの項目は3つ。トレーニングの項目は3つ。うまく飛ぶこと、餌を探ること、そして仲間たちとの社会

性を養うことです。

このため、郷公園には高さ7メートル、約40メートル四方のケージがあり、中には小川や小さな湿地もあります。この広いケージの中に放された複数のコウノトリたちは飛び回る力をつけ、川の中に放たれた魚を追い回し捕まえることを練習するのです。

「うまく飛び回り、餌を探る」ということは、これから野生での生活をしなければならぬコウノトリにとっては欠かせないことです。では、社会性を養うとはどんなことでしょうか。

いずれ野外で生活をして行くには、パートナーを見つけ子孫を作らなくてはなりません。

せん。これには、自分のお気に入りの相手を見つけた必要があります。もし、お気に入り相手が見つかったとして、巣作りなどを邪魔するコウノトリが出てきたときには、パートナーを守り、邪魔者を追い払わなければなりません。しかし、繁殖の時期を過ぎてしまえば、それほど争いをしなくてもよくなるのですが。

コウノトリは単独性が強く、気性の激しい鳥ですが、それでも1年を通じて他のコウノトリと親和的、あるいは排他的とさまざまな社会関係を保っているのです。若いときに仲間と一緒に活動すること、これは人もコウノトリでも大事なことです。

(次回につづく)



▲放鳥に向けトレーニング中のコウノトリ

学校での省エネ活動

ファイフティファイフティシステム実施中

がんばる学校!がんばる子どもたち!

地球の将来を担う子どもたちは、環境に対する正しい意識を持ち、環境に優しい生活習慣を身につけていかなければいけません。市内の小中学校では環境教育の一環として「ファイフティ ファイフティシステム」による節電を実施しています。節電への心がけを、学校だけでなく、家庭へ、地域へと広げていきましょう!

【問合せ】教育総務課

ファイフティファイフティシステムって?

学校において「節電」を行い、前年度と比較して節約できた額の50%を、子どもたちに役立つ物品などにより学校へ還元するというシステムです。今年度から本格実施しています。

～お願い～

スポーツクラブなどで学校施設を利用される際には、ファイフティファイフティシステムの趣旨を十分理解していただき、節電に協力ください。



実践例 神美小学校『省エネルギーの取組み』

昨年、神美小学校は、省エネルギー教育推進モデル校として節電に取り組んでいました。

使わない教室やトイレなどの電気をこまめに消すことなどにより、前年と比較して18%の節電に成功しました。そのうち半分の9%分を子どもたちが希望したドッジボールなどの物品で還元しました。

しかし、一番の成果は、子どもたちが省エネすることを意識し、具体的な実践に結びつけたことです。

また、家庭でできることを考え、家庭にもその輪を広げているというすばらしい波及効果も出てきています。